

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年11月30日

事業所名 こどもサポート はるかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・主の活動時は中央フロア、クールダウンスペースは和室、と状況に合わせて活用している。	・空間仕切りが有効活用されていない状況もあり、安全に配慮しながら細かくスペースを区切り安心して過ごせる環境につなげたい。
	2	職員の配置数は適切である	○			・女性スタッフを早急に配置し、性別にかかわらず保護者さまお子さまにとっても安心できる人員を確保していきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・出入り口については、スロープを設置している。	・トイレ空間においては2室あるもののスペースが十分とはいえずバリアフリー化を目指したい。また、テーブル高低についてもお子さまの身の丈に合った設備を整えていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・新型コロナウイルス感染対策にて事業所内の消毒は毎利用時行っている。また、臭気にも収着できる壁紙を使用している。	・空間のスペースに合わせて視覚的情報も増やしていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・業務内容を明確にし詳細な時間設定をしながら、業務バランスを見極めている。	・個々が受動的に行動できるよう、目標設定においてはPDCAサイクルと併せてセルフマネジメントをさらに進めたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・今年度が初めてとなるが、改めて保護者さまからのご意向を認識できた。評価から改善に向けた業務改善を図っていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・ホームページを有効なツールとして幅広く周知し、情報公開を積極的に図りたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・外部評価については予算面も含め検討中だが、第三者による評価が業務改善に活かせるよう引き続き情報収集を行っていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・支援の質向上のため、オンラインを用いた研修動画サービスを導入している。	・外部研修の機会を増やし、さらなる資質向上のベースアップを図りたい。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・アセスメントも含め、課題分析においても年齢別スキルリストを用いている。	・支援対応方法まで保護者さまと密に連携を図りながら支援の統一性を目指したい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・アセスメント時にもアンケート及びエピソードからより正確なアセスメントを心掛けている。	・Vineland適応行動尺を応用したアセスメントツールを導入しているが、十二分に活用できていると云えず今後はより正確なアセスメントを行えるよう努めたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			・複合的な組合せで支援を実施しているが、週間利用回数についても考慮し、サービス形態として週1回の通所でも成果を持てる専門性を深めていきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			・計画書に沿う目標と併せて新たな発見を随時盛り込める、お子さまの状況を柔軟に反映できる支援を行ってきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・「ねらい」と「目標」を毎活動時に設定共有し、役割分担で行っている。	・プログラムにおいても単一的な活動を避けるため、お子さま達の意見も組み入れながら最適化を目指したい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・興味が持てる範囲をステップアップで取り入れ、「楽しさ」の持続を意識しながらプログラム設定をしている。	・支援と併せて職員自身の特性も活かしながら、関わりを重視し「他者」に興味関心が持てる活動を継続していきたい。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・小集団活動を主としているが、学習・製作活動においては個別課題に取り組んでいる。	・目標の細分化をすることできめ細やかな支援を目指し、個→集団→社会と個々の自立を見据え将来の可能性をより広げる個別計画書にしていきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・支援前には申送りを行い、活動及び支援内容に関わらず幅広く共有事項を確認している。	・的確な役割分担を持ち、支援の質向上に努めていきたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・申送り時には振り返りや気になる点を必ず確認するが、必要に応じて活動設定を変更するケースもあるほど柔軟に共有を図っている。	・客観性を持った的確な共有を行いながら、支援の質向上に努めていきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・クラウド上でケース記録を作成している。またID/パスワードを指導員別に発行し、共有のし易さとセキュリティを図っている。	・事実記述と見解を分け、正確な記録を心掛けている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・確実にお子さまのステップアップが図れるよう、提案も含めヒアリングを重視している。	・定められた時期だけでなく必要に応じた柔軟なモニタリングを行っていきたい。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・必要に応じて参画できる者を増やしていきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		・情報共有は十分とはいえず、より連携を図っていきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		・現在ご利用なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		・今後はより関係機関とも情報共有等の連携を図っていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		・現状は地域散策や公園へ向いた際の偶発的な交流が占めているため、障害の有無に関わらず多様な交流機会をさらに設けていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		・今後はより関係機関とも情報共有等の連携を図っていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・連絡帳や申し伝えにて共通理解を図っている。	・ご家族との共有理解を深める発信を積極的に行っていきたい。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		・ヒアリング時、特性に対応する声かけやツールを申し伝えているケースもありながらも個別対応やタイミングの統一性がない。全ての保護者さまにとって必要なペアレントトレーニングの機会を設けていきたい。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・より簡潔且つ明確な資料等も用いながら、分かりやすい説明に努めていきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			・個別計画書においても、テキストだけでなくより分かりやすい・伝わりやすい記載をしていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・支援の質向上とともに、全スタッフの対応力もベースアップを図りながら保護者さまからの相談に幅広く対応していきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・感染症対策を講じながら、情報交換・活動報告・支援方針等を行う場を設け連携を強化していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			・組織として適切に対応できる体制作りを見直しながら、迅速さに解決できるよう組織力を高めていきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		・情報発信を積極的に行いながら、保護者さまとも連携を強化していきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			・個人情報を守りながら、安心して通所できる事業所を継続していきたい。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・個別に応じた伝達方法を行っているが、配慮を重ねながらより伝達できる工夫を行ってきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・地域性をより深めながら発展的な開かれた事業運営に努めていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			・より分かりやすい周知を行いながら、安心して通所できる事業所作りに努めたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・年2回の訓練以外にも活動時のテーマに設定し紙芝居等でも重要性を伝えているが、均等な機会とは言えず継続した取り組みが必要。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			・アセスメント時に必要な情報を聞き取り、職員間で共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		・重篤なアレルギー反応があるお子さまは居ない状況にもあるが、管理者においてはエビデン研修実施済み。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・ヒヤリハットの重要性を職員間で共有し、事例についても改善を図っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			・外部の虐待防止研修にも積極的に参加していきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			・現在は身体拘束を必要とする対応が求められていない状況にあるが、体制についても整えていきたい。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。